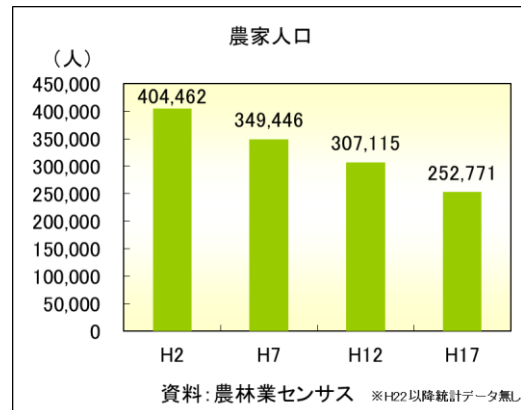
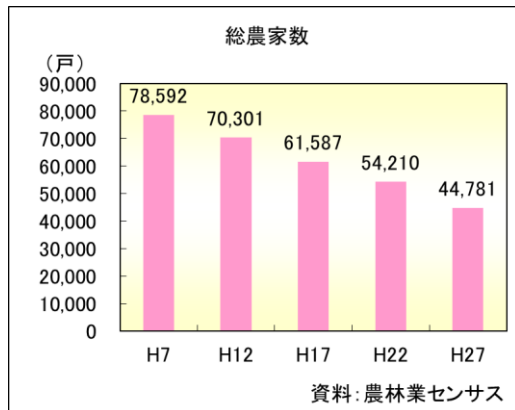


第1章 農業・農村の現状

1 農業構造及び農業生産の現状

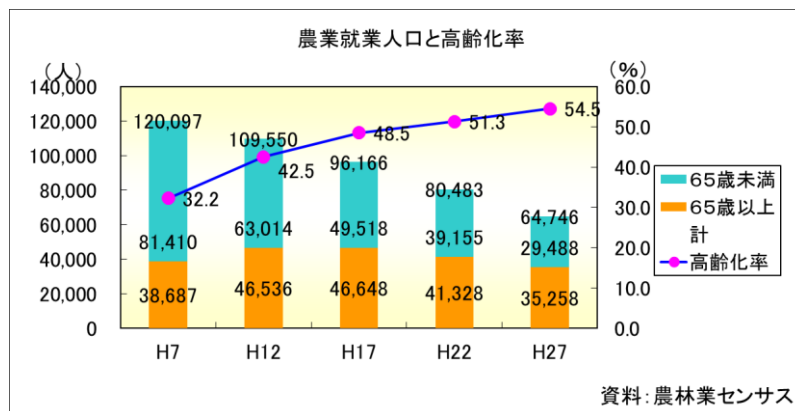
(1) 総農家数と農家人口

平成27年の総農家数は44,781戸で、平成22年より9,429戸、平成17年に比べ16,806戸減少しています。また、農家人口も平成12年で307,115人、平成17年で252,771人と年々減少しています。



(2) 農業就業人口と高齢化

平成27年の農業就業人口は、64,746人で、平成22年より15,737人、平成17年に比べ31,420人減少しています。また、農業就業者の高齢化率（65歳以上の割合）は、平成22年の51.3%から平成27年に54.5%となり、高齢化の傾向が顕著になっています。



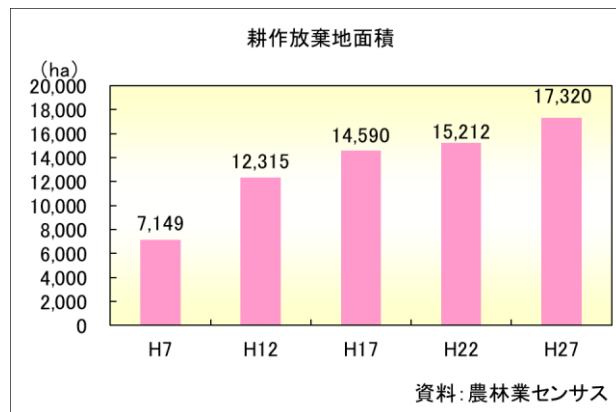
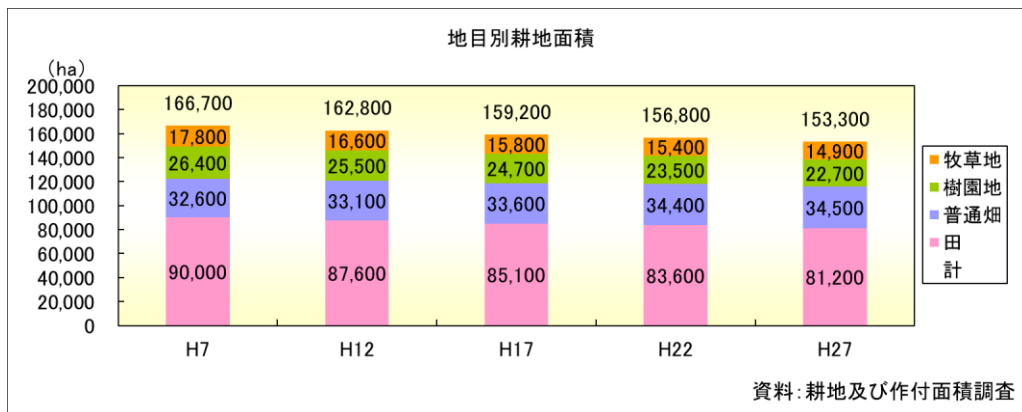
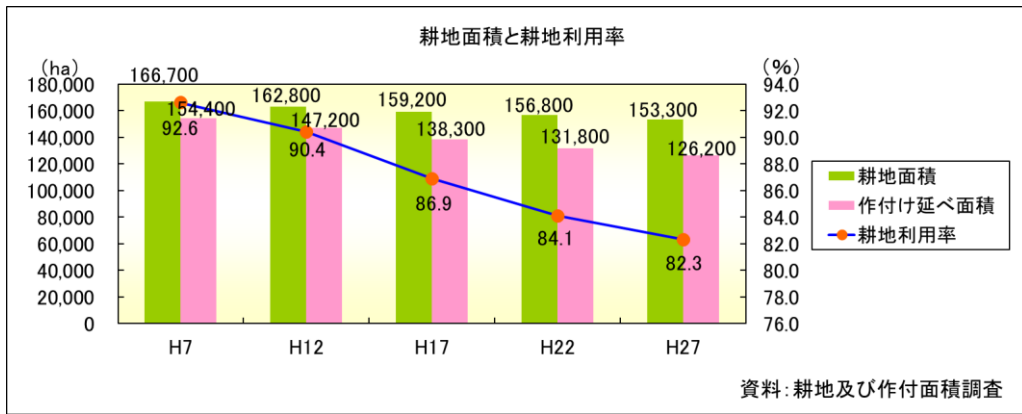
(3) 耕地面積

平成27年の耕地面積は、平成22年に比べ3,500ha減少の約153,300haとなっています。地目別では、田、樹園地、牧草地は減少傾向にあり、普通畑は若干増加しています。

平成27年の作付け延べ面積は、平成22年に比べ5,600ha減少の約126,200haとなっています。また、耕地利用率（作付け延べ面積÷耕地面積×100）も平成22年から1.8ポイント落ち込み82.3%となっており、年々利用率は低下しています。

さらに、平成27年の耕作放棄地は、平成22年に比べ2,108ha増加の17,320haとなっており、年々増加しています。

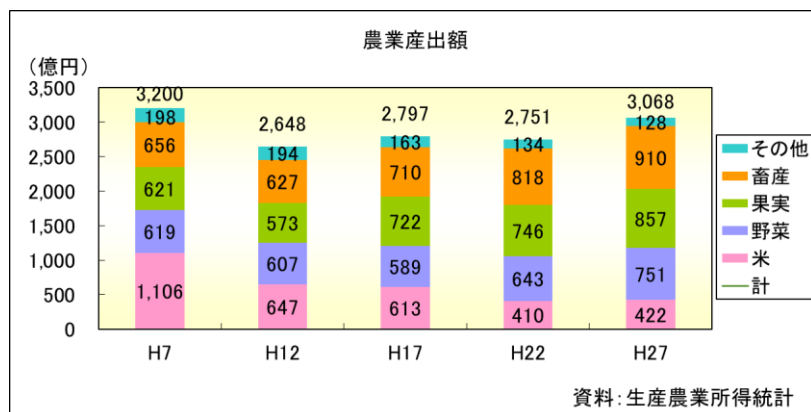
平成17年から27年までの10年間における水田の面積の減少は、平均すると年間400haとなっています。コメの需要の減少が今後も見込まれる中、10年間で4,000ha相当の減少になり、水田を活用した高収益作物の栽培の拡大が必要となっています。



(4) 農業産出額

平成 27 年の農業産出額は 3,068 億円で、平成 22 年より 317 億円増加し、平成 17 年に比べて 271 億円増加しています。

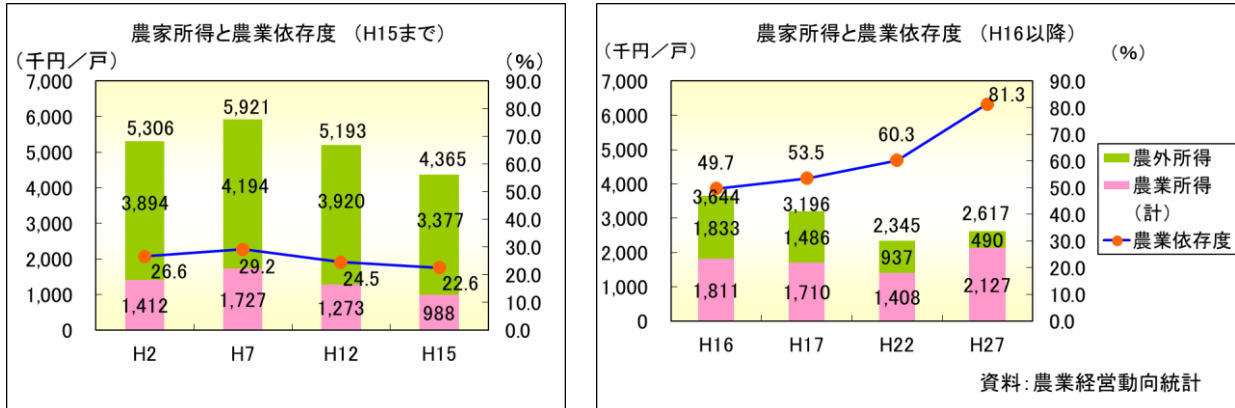
このうち、野菜、果実、畜産は比較的安定しています。



(5) 農家所得と農業依存度

平成 27 年の農家所得は 2,617 千円／戸で、平成 22 年に比べ 272 千円／戸増加しています。また、平成 27 年の農業所得は 2,127 千円／戸で、平成 22 年に比べ 719 千円／戸増加しています。

農外所得は年々減少傾向にあるため、農業依存度は増加する傾向にあります。



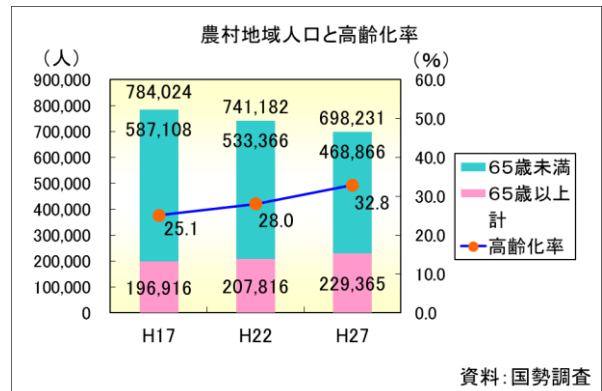
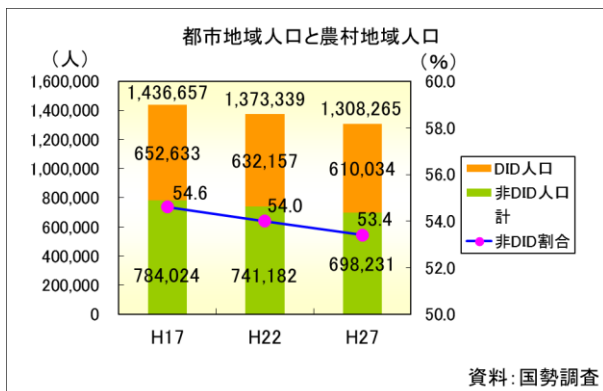
注 1) 平成 16 年から調査方法が変更されたためデータは連続していない。

注 2) 農業依存度 = 農業所得 ÷ 農家所得 × 100

2 農村地域の現状

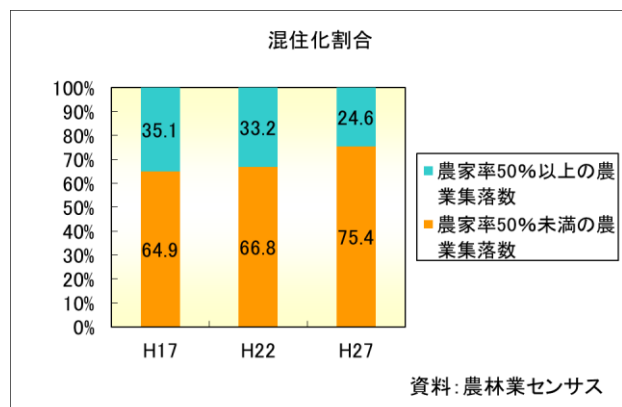
(1) 農村地域の人口と高齢化

県人口を都市地域 (D I D) と農村地域 (非 D I D) に区分して、平成 22 年と平成 27 年と比較すると、農村地域の人口割合が 54.0% から 53.4% と僅かに減少し、過疎化の進行が窺えます。また、農村地域における高齢化率 (65 歳以上の割合) は、平成 22 年の 28.0% から、平成 27 年には 32.8% となり、高齢化が進んでいます。



(2) 混住化

混住化割合 (農家率 50% 未満の農業集落の割合) は、平成 22 年には 66.8% でしたが、平成 27 年には 75.4% となり、混住化が進んでいます。



3 農業農村整備の現状

あおり水土里づくり推進プラン(青森県農業農村整備中期推進方針)[平成26年度～30年度]の実施状況を踏まえた農業農村整備の現状は以下のとおりです。

(1) 担い手への農地の集積

担い手に対し面的なまとまりのある形で農地集積しながら、担い手の経営規模をさらに拡大して、効率的な営農を実現していくため、ほ場整備等の基盤整備を実施してきました。

ほ場の整備は、平成28年度までに54.4%が整備済みであり、集積率は48.2%となっています。

しかしながら、未整備の水田は、区画が狭小で水はけも悪く、担い手への集積や経営の複合化が困難となっているため、引き続き計画的な整備が必要となっています。

《ほ場の整備(30a区画以上)》

区分	水田面積(ha)	整備済み面積(ha)	整備率(%)	期間内整備面積(ha)
H20年度	83,775	42,644(3,076)	50.9(3.7)	—
H25年度	83,048	42,039(3,359)	51.8(4.0)	395(282)
実績(H28)	80,000	43,550(3,804)	54.4(4.8)	511(445)

注1) H25年度欄は、平成26年度農業基盤整備基礎調査(平成25年度末)

注2) 実績(H28)欄は、平成29年度農業基盤整備基礎調査(平成28年度末)

注3) ()は内数で、0.5ha以上の大区画ほ場

《基盤整備を契機とした担い手への農地利用集積》

区分	整備面積(ha)	農地集積面積(ha)	集積率(%)	期間内集積面積(ha)
H20年度	3,566	1,682(962)	47.2	—
H25年度	5,268	2,731(1,153)	51.8	1,049(191)
実績(H28)	6,797	3,279(1,637)	48.2	548(484)

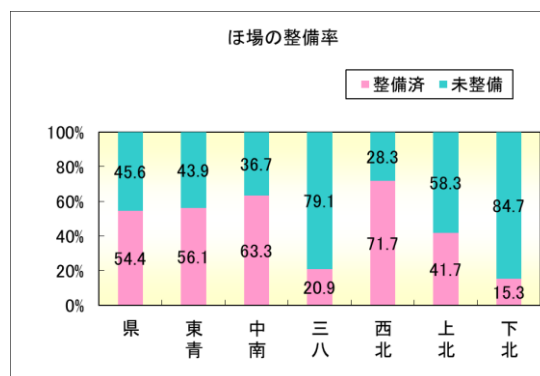
注1) 整備面積は平成2年以降のほ場整備事業の整備面積

注2) 農地集積面積は事業実施後の担い手への農地集積面積

注3) ()は事業実施による農地集積の増加面積

《地域別のほ場の整備》

区分	水田面積(ha)	ほ場の整備(30a区画以上)			
		整備済み面積(ha)	うち大区画	整備率(%)	うち大区画
県全体	80,000	43,550	1,791	54.4	2.2
東青地域	8,469	4,752	203	56.1	2.4
中南地域	11,882	7,519	228	63.3	1.9
三八地域	7,530	1,572	111	20.9	1.5
西北地域	28,012	20,089	862	71.7	3.1
上北地域	22,479	9,372	279	41.7	1.2
下北地域	1,605	245	108	15.3	6.7



資料：平成29年度農業基盤整備基礎調査(平成28年度末)

(2) 担い手の育成に資する生産基盤整備

1) 担い手を重視した基盤整備

高収益作物を中心とした営農体系への転換を促進するため、区画整理や暗渠排水等の実施による水田の汎用化を進めてきました。

汎用化水田の整備率は、平成 28 年度までに 43.9%が整備済みとなっています。しかしながら、未整備の水田では、排水性が悪いことや施設の老朽化等が課題となっており、排水対策などを進めていく必要があります。

《汎用化水田の整備》

区分	水田面積 (ha)	整備済み面積 (ha)	整備率 (%)	期間内整備面積 (ha)
H20 年度	83,775	34,484	41.2	-
H25 年度	83,048	34,870	42.0	386
実績 (H28)	80,000	35,117	43.9	247

注 1) 汎用化水田とは、畑地として高い生産性を兼ね備え、4 時間の雨量を 4 時間で排除する機能を有し、冬期間の地下水水位が 70cm 以深の水田

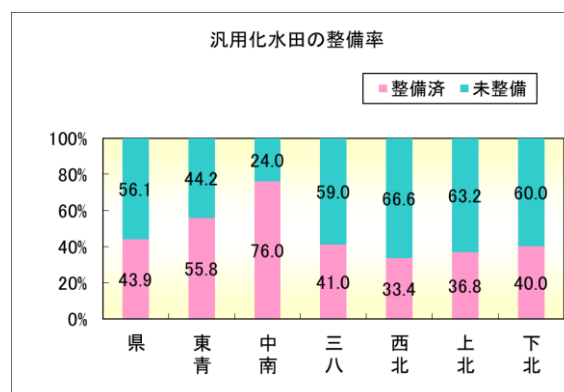
注 2) H20 年度欄は、平成 21 年度農業基盤整備基礎調査 (平成 20 年度末)

注 3) H25 年度欄は、平成 26 年度農業基盤整備基礎調査 (平成 25 年度末)

注 3) 実績 (H28) 欄は、平成 29 年度農業基盤整備基礎調査 (平成 28 年度末)

《地域別の汎用化水田の整備》

区分	水田面積 (ha)	汎用化水田の整備	
		整備済み面積 (ha)	整備率 (%)
県全体	80,000	35,117	43.9
東青地域	8,469	4,724	55.8
中南地域	11,882	9,026	76.0
三八地域	7,530	3,085	41.0
西北地域	28,012	9,367	33.4
上北地域	22,479	8,272	36.8
下北地域	1,605	642	40.0



資料：平成 29 年度農業基盤整備基礎調査 (平成 28 年度末)

2) 地域の多様な農業戦略に対応した畑地帯の整備

担い手が中心となって、米だけに依存しない効率的な農業経営を展開していくため、高品質で付加価値の高い農作物の安定供給を可能とする特色ある産地づくりなど、地域の多様な農業戦略への対応を進める観点から、畑地の区画整理、畑地かんがい施設、暗渠排水、農道などを整備してきました。

計画期間内 (H25~H30) に畑地 1,093ha を整備 (更新整備を含む) しています。農道の整備実績は 6.6km であり、既存農道の路面改良等を行う農道保全是 21 地区で整備してきました。

畑地や樹園地において、高品質な野菜・果樹等の拡大等を促進するため、引き続き畑地かんがい施設や排水改良等の整備を推進していく必要があります。

《畑地の整備》

区分	整備面積 (ha)	更新面積 (ha)	期間内整備面積 (ha)
実績 (H25)	345	817	1,162
実績 (H30)	278	815	1,093

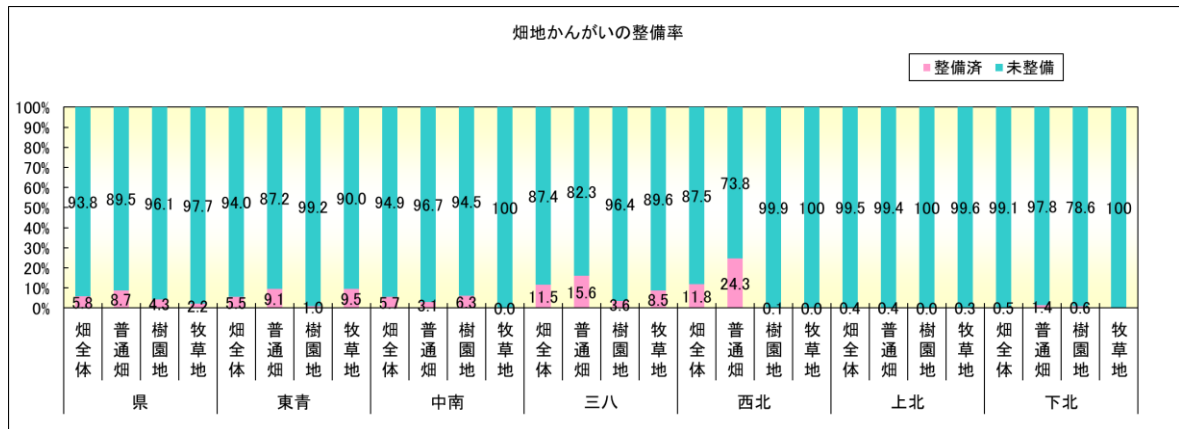
《農道の整備》

区分	農道整備延長 (m)	農道保全 (地区)
実績 (H25)	28,281	30
実績 (H30)	6,598	21

《管内別、地目別の畑地かんがいの整備》

区分	畑全体			左の内訳								
	整備対象面積 (ha)	整備済面積 (ha)	整備率 (%)	普通畑			樹園地			牧草地		
				対象面積 (ha)	整備済面積 (ha)	整備率 (%)	対象面積 (ha)	整備済面積 (ha)	整備率 (%)	対象面積 (ha)	整備済面積 (ha)	整備率 (%)
県全体	74,562	4,318	5.8	32,777	2,859	8.7	25,170	1,087	4.3	16,614	373	2.2
東青地域	4,505	248	5.5	1,283	117	9.1	2,069	21	1.0	1,152	109	9.5
中南地域	17,387	993	5.7	1,986	62	3.1	14,901	932	6.3	500	0	0.0
三八地域	15,085	1,733	11.5	8,756	1,369	15.6	3,543	127	3.6	2,786	237	8.5
西北地域	10,516	1,240	11.8	5,086	1,234	24.3	4,464	6	0.1	966	0	0.0
上北地域	22,903	85	0.4	14,342	58	0.4	160	0	0.0	8,401	27	0.3
下北地域	4,166	19	0.5	1,324	19	1.4	34	0	0.6	2,808	0	0.0

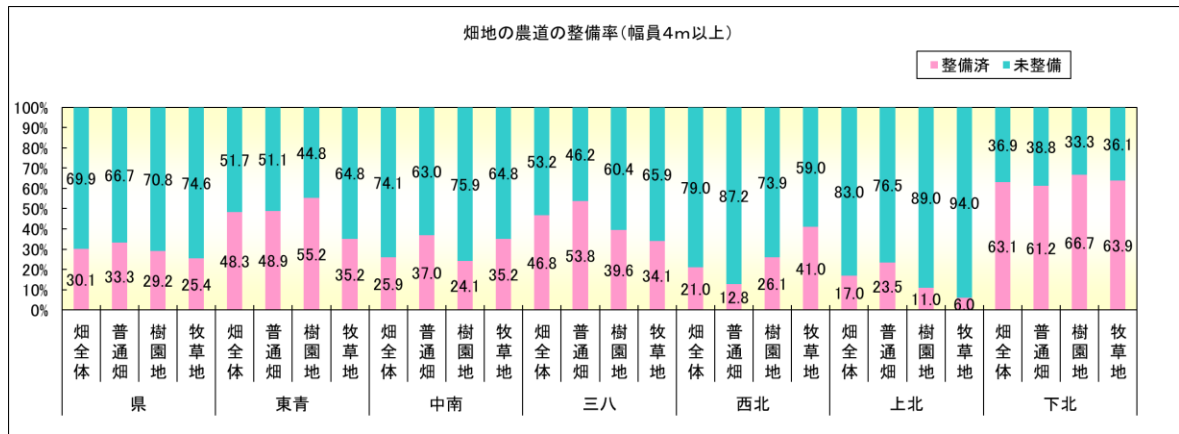
資料：平成29年度農業基盤整備基礎調査（平成28年度末）



《地域別、地目別の畑地の農道の整備（幅員4m以上）》

区分	畑全体			左の内訳								
	整備対象面積 (ha)	整備済面積 (ha)	整備率 (%)	普通畑			樹園地			牧草地		
				対象面積 (ha)	整備済面積 (ha)	整備率 (%)	対象面積 (ha)	整備済面積 (ha)	整備率 (%)	対象面積 (ha)	整備済面積 (ha)	整備率 (%)
県全体	74,562	22,472	30.1	32,777	10,907	33.3	25,170	7,345	29.2	16,614	4,221	25.4
東青地域	4,505	2,176	48.3	1,283	628	48.9	2,069	1,143	55.2	1,152	405	35.2
中南地域	17,387	4,505	25.9	1,986	734	37.0	14,901	3,595	24.1	500	176	35.2
三八地域	15,085	7,061	46.8	8,756	4,710	53.8	3,543	1,402	39.6	2,786	949	34.1
西北地域	10,516	2,213	21.0	5,086	653	12.8	4,464	1,165	26.1	966	396	41.0
上北地域	22,903	3,890	17.0	14,342	3,372	23.5	160	18	11.0	8,401	500	6.0
下北地域	4,166	2,627	63.1	1,324	810	61.2	34	23	66.7	2,808	1,794	63.9

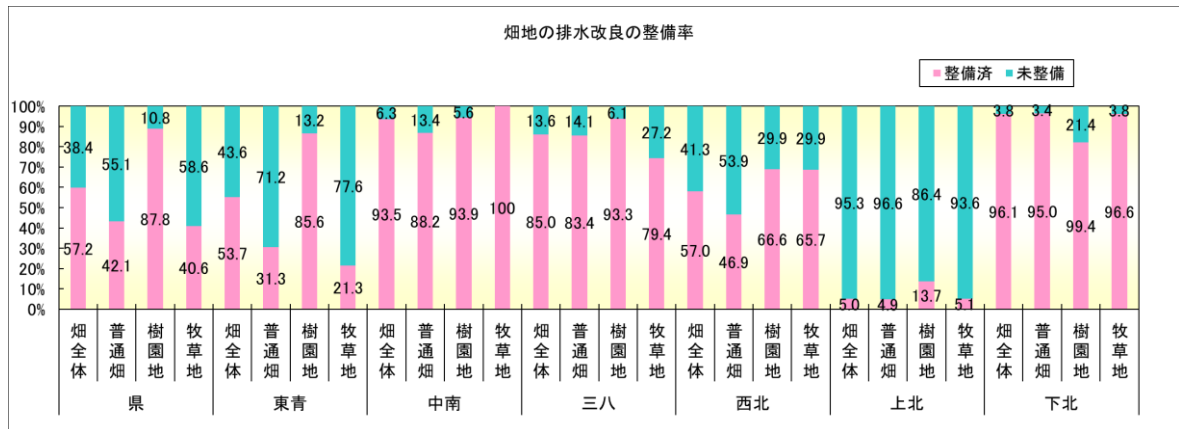
資料：平成29年度農業基盤整備基礎調査（平成28年度末）



《管内別、地目別の畑地の排水改良》

区分	畑全体			左の内訳								
	整備対象面積 (ha)	整備済面積 (ha)	整備率 (%)	普通畑			樹園地			牧草地		
				対象面積 (ha)	整備済 (ha)	整備率 (%)	対象面積 (ha)	整備済 (ha)	整備率 (%)	対象面積 (ha)	整備済 (ha)	整備率 (%)
県全体	74,562	42,632	57.2	32,777	13,793	42.1	25,170	22,102	87.8	16,614	6,738	40.6
東青地域	4,505	2,419	53.7	1,283	402	31.3	2,069	1,772	85.6	1,152	245	21.3
中	17,387	16,248	93.5	1,986	1,752	88.2	14,901	13,996	93.9	500	500	100.0
三八地域	15,085	12,817	85.0	8,756	7,299	83.4	3,543	3,304	93.3	2,786	2,213	79.4
西北地域	10,516	5,995	57.0	5,086	2,386	46.9	4,464	2,974	66.6	966	635	65.7
上北地域	22,903	1,148	5.0	14,342	696	4.9	160	22	13.7	8,401	430	5.1
下北地域	4,166	4,005	96.1	1,324	1,257	95.0	34	34	99.4	2,808	2,714	96.6

資料：平成29年度農業基盤整備基礎調査（平成28年度末）



(3) 農業水利施設のストックマネジメント

県内の基幹的農業水利施設は昭和30～40年代に築造されたものが多く、老朽化の進行等により安定的な農業用水の確保に支障を来しているため、既存ストックの有効活用の観点で、適切な機能診断と予防保全対策により農業水利施設の長寿命化を図ってきました。

計画期間内（H25～H30）に機能診断は91施設、予防保全対策工事は25施設を実施していますが、引き続き、農業水利施設の長寿命化を図っていくため、適切な機能診断と予防保全対策に取り組んで行く必要があります。

《機能診断実施施設数》

区分	用水路	頭首工	揚水機場	排水路	その他	計
実績 (H25)	38	17	11	8	1	75
実績 (H30)	51	10	6	23	1	91

《予防保全対策工事実施施設数》

区分	用水路	頭首工	揚水機場	排水路	その他	計
実績 (H25)	5	1	3	2	0	11
実績 (H30)	7	3	6	8	1	25

注1) 実施施設数は計画期間内の着手地区数

(4) 農村の地域資源の適切な保安全管理

農業者や土地改良区だけでなく地域住民、NPO等の多様な主体が参画して、農地や農業用排水路などの維持・保全に向けた草刈りや泥上げなどの共同活動は、農業・農村の多面的機能の維持・発揮のために必要です。

このため、計画期間内に農村の地域資源の維持保全活動などを行う多面的機能支払交付金制度を活用した取組が43,543haの農地を対象に行われています。

構成員の高齢化等に伴い、活動の継続が危惧されていることから、次世代の人財育成が必要となっています。

《多面的機能支払交付金対象農用地面積》

区分	活動組織数	水田 (ha)	畑 (ha)	草地 (ha)	計 (ha)
実績 (H25)	364	30,674	3,599	487	34,760
実績 (H30)	482	38,291	4,944	308	43,543

(5) 活力ある安全・安心な農村づくり

1) 農村の生活環境基盤等の整備

快適で暮らしやすい活力ある農村づくりのために、農業集落排水処理施設や農業集落道などの生活環境基盤や、都市との交流、地域間の交流の促進に資する農村交流施設などを整備してきました。

計画期間内(H25~H30)で、農業集落排水事業は2地区で実施しており、H29年度時点の普及率は96.4%、農村生活環境基盤を整備する総合整備事業は8地区実施しています。

農村の生活基盤の機能が損なわれないよう、老朽化が進行する農道や農業集落排水施設の効率的な保安全管理に取り組む必要があります。

《農業集落排水処理人口及び普及率》

区分	対象人口(人)	処理人口(人)	普及率(%)
実績 (H25)	196,965	127,041	64.5
実績 (H29)	107,982	112,008	96.4

注1) H25年度の対象人口は汚水処理構想の農業集落排水処理対象人口

注2) H29年度の対象人口及び処理人口は平成30年度農業集落排水事業実施状況調査による

《総合整備事業実施地区数》

区分	農村振興総合整備	中山間地域総合整備	計
実績 (H25)	1	3	4
実績 (H30)	1	7	8

注1) 実施地区数は計画期間の着手地区数

2) 農村の防災対策

自然災害から農村地域住民の生命・財産を守るとともに県土を保全し、安全・安心な農村づくりのため、ため池整備や地すべり対策など農村の防災対策を着実に実施してきました。

計画期間内（H25～H30）において、ため池整備5地区、地すべり対策2地区を実施しています。

近年多発する豪雨や地震等の自然災害から農業農村を守るため、ため池等の農業水利施設の長寿命化や耐震化などの防災・減災対策に引き続き取り組む必要があります。

《ため池整備地区数（規模別）》

区 分	整備地区数 (10ha 未満)	整備地区数 (10～100ha)	整備地区数 (100ha 以上)	計	期間内整備 地区数
実績 (H25)	138	74	15	227	5
実績 (H30)	138	79	15	232	

《地すべり対策地区数》

区 分	地すべり 危険箇所	整備地区数	整備率(%)	期間内整備 地区数
実績 (H25)	33	7	21.2	2
実績 (H30)	33	8	24.2	